

淀川水系流域委員会

委員長 芦田和男様

淀川部会長 寺田武彦様

志岐常正

淀川流域の新たな整備を目指してのご検討に心から敬意を表します。

さて先に、私ども「阪神大震災の教訓を忘れず、市民のための防災を考える市民の会」からお願いを差し上げました。

実は、私も何度か貴委員会を傍聴させて頂き、また淀川工事事務所や琵琶湖工事事務所の方がたと直接懇談する機会を持つことも出来ました。しかしどうもいつも近畿整備局からの返答は抽象的で分かりにくく、要領を得ないように思います。そうかと思えば、“森林整備案は代替え案にならぬ”などと、貴委員会の提言を真っ向から否定するような返答が、何の資料も付けずに出されています。このままでは、貴委員会のご努力は何の実効もなかったことになりはしないかと怖れています。

おそらくは、私どもも、質問や意見の内容を、もっと具体的にしよう努力しないと、何時までたっても河川整備局と住民とは、意見のすれ違いを繰り返すだけではないかと思えます。

先のお願いは、このような点にも鑑み、貴委員会にも、問題意識をもっと具体化して検討をお願いした方がよいと考えて差し上げております。素人の市民の素朴な疑問が多く含まれていますが、何らかのご返答のようなものが頂ければ、幸いと存じます。

ところで、今、私どもが一番心配しているのは、これまでに既に申し上げましたように、宇治川に毎秒1500トンの水を流すという計画が固持されていることです。

河は生き物であること、河川には水だけが流れているのではないことは言うまでもありません。

この点に関わっては、河川整備局の「説明資料」（第2稿）にも、“河川材料や形状などの調査及び河床変動等といった土砂動態のモニタリングを実施し、その調査結果を踏まえ、山地流域から沿岸海域に至るまでの総合土砂管理方策について検討する。なお、土砂流出防止機能を有する森林の保全・整備の検討について、関係機関との連携を図る。”と書かれております

（上に触れました“返答”とは異なった内容と思います）。1500トン/秒を流すといった計画は、このような調査がなされ、その結果が出されるまで保留されるべきであると思いますが、いかがでしょうか。

以下、この検討に関連して、私が必要と考える項目、問題をいくつか挙げてみたいと思えます。

検討項目としての必要性を含め、委員会でご検討下さるようお願いいたします。また、そ

の結果について、何らかのお知らせをいただければ幸いです。

*現在の宇治川～淀川で、堆積地域と浸食地域、それらの”節”(境)はどこか。天瀬ダム建設前とどう変わったか。

最高1500トン/秒を流した場合には、それらの位置、範囲はどのような影響を受けるか。

具体的には、塔の島付近やJR鉄橋付近はどうなるか。その場合の維持管理にはどのようなことが必要か。たとえば、恒常的に掘削を続けねばならぬ場所を生ずることはないか。

*各場所での砂堆の側方付加、流路の蛇行傾向は、河川整備計画策定ではどのように予想されているか。1500トン/秒流れている時の自然な蛇行曲率はいくらか。現在の河道は秀吉が作ったものだが、900トン/秒の流速などにフィットしているのか。天ヶ瀬ダム建設の影響は見られないか。

*低水流と高水流とは自然な蛇行曲率が異なるが、河道全体とそれ中の低水の流路とを区別し、それぞれ異なった曲率を与えることが望ましい(淀川に限らず、日本の多くの大河で、その現象が自然に起こっている)。整備計画ではこの点はどうか考慮されているか。

*1500トン/秒を流すような河川整備によって、現在、破堤が怖られているところに、現在よりも強い流れをぶち当てるようなことになる所はないか。現在の河川敷利用場所、たとえばゴルフ場などに影響がないか。高水、低水、中水を分けて検討されているか。

以上よろしくお願いいたします。